



日耳鼻医学会FAXニュース NO 193

平成24年9月5日 発行 (特)日本耳鼻咽喉科医学会
〒104-0031 東京都中央区京橋2-11-8 全医協連会館5F

E-mail jimu@jenti.or.jp HP <http://www.jenti.or.jp>
FAX 03-5524-5228 TEL 03-5524-5230

「九州フォーラムin熊本2012」開催迫る

9月8日(土)午後2時半～分科会 午後6時～懇親会
9月9日(土) 午前9時20分～ 全体集会
分科会・全体集會会場 くまもと県民交流館パレオ
懇親會会場 ホテル日航熊本
詳細は案内冊子ならびにホームページを ご覧下さい。

<http://www.kyusyuforum.com/>

当日登録も可。多数のご参加をお待ちしております。

第8回日本臨床分科医会代表者会議開催される

平成24年8月23日、日本眼科医会事務局で上記会議が開催され、当会より石山顧問、中澤副理事長が出席した。この会議には、日本医師会、整形外科、精神神経科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、放射線、眼科並びに当医会が出席した。今回は内科・外科医会が都合で欠席した。冒頭、日本医師会常任理事の挨拶があり、この会議の内容を日医執行部に伝え、必要な事は中医協にも伝える事を話された。その後、各分科医会よりの検討議案が審議された。

先ず、日本臨床整形外科学会より、柔整療養費の問題が提出された。昨年度の柔整療養費は4075億円であり、検査・投薬も無く、打撲・捻挫の応急手当(骨折・脱臼)のみで、年間の小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科そして皮膚科各科の診療所の入院外医療費よりも多く、また柔整師総数最近は急増し総医師数よりも多い事、そしてこの医療費が医科の中に按分推計され、そのまま医療費問題として取り上げられている点に不合理性を感じると云う問題提起がなされた。

当医会からは、専門小科を日医はどの様に位置づけているのか、又各医会では外保連、内保連とどのように関わっているのかについて質問した。日本医師会からは、総合医と専門小科の良好な相互協力の出来る環境を保つ事が目的と説明された。外保連・内保連との関係では他科は役員或いは委員を出しているとの事であった。また現在休会している小児科、産婦人科にも参加の働き掛けをする事を決議した。次回の会議は平成25年2月28日に開催決定。

疑義解釈資料(その8)より 厚労省保険局医療課

(問18)D327終夜睡眠ポリグラフィー(多点感圧センサーを有する睡眠評価装置を使用した場合)の算定要件に「多点加圧・・・睡眠時無呼吸症候群の診断を目的として使用し、解析を行った場合に算定する。」とあり、「C107-2在宅持続陽圧呼吸・・・治療の効果を判定するため、6月に1回を限度として算定できる」と示されている。C107-2を算定していない患者で、既に睡眠時無呼吸症候群と確定診断されている患者は算定できるか。(答)算定出来ない。

(問19)D327終夜睡眠ポリグラフィーの算定要件に、「D223経皮的動脈血酸素飽和度及びD223-2終夜経皮的動脈血酸素飽和度の費用は所定点数に含まれる。」とあり、「数日間連続して測定した場合でも、一連のものとして算定する。」と示されているが、検査の包括規程はどうなるか。

(答)診断が確定する迄の間が「一連のもの」の期間である。

(問31)K331-3下甲介粘膜レーザー焼灼術で評価するレーザーとは、具体的に何が該当するか。

(答)薬事法上効能効果が認められているレーザーをいう。

(問43)K934-2副鼻腔手術用軟部組織切除機器加算についてはどのような機器を使用した際に算定できるのか。

(答)副鼻腔の軟部組織の又は骨関連組織の切除に用いる電動式器具(シエバシステム等)を使用した場合に算定出来る。

(事務連絡平成24年8月9日)

レセ突合点検の5月査定が3割減、

縦覧点検査定は増加傾向

支払基金によると、5月審査分の突合点検は7.6万件、2293万点となり、3月と4月の10万件余、3100 - 3300万点に比べて、件数、点数とも3割程度的大幅な減少となった。請求件数・点数に対する比率で見ても同様となっている。

一方、縦覧点検は、2.0万件、501万点となり、3月の開始以降、わずかながら増加する傾向にある。

突合点検は、4月10.5万件(0.181%)、5月7.6万件(0.149%)と実数が5月には前月対比27.6%減と大きく落ち込んだ。請求件数に対する査定件数の比率では、4月も3月に比べて低下したが、5月に大きな落ち込みを見せた。

突合点検の点数は、4月3312万点(0.0317%)、5月2293万点(0.0246%)と推移、3月、4月はほぼ横ばいであったが、やはり5月に前月比30.8%減と大きな落ち込みを見せた。

一方、縦覧点検は、件数が3月以降、1.4万件、1.8万件、2.0万件と徐々に増加する傾向にある。点数では423万点、503万点、501万点となり、5月はわずかながら減少した。

しかし、請求件数・点数に対する比率で見ると、件数も点数も増加傾向となっている。(Online Medニュース8月3日)

大衆薬で24人死亡の可能性 過去5年の副作用で

厚労省は8月29日、医師の処方箋がなくても購入できる一般医薬品(大衆薬)の副作用で2007~2011年度の5年間に24人が死亡した可能性があると発表した。因果関係が不明なケースも含んでいるという。

製薬会社からの報告を集計。かぜ薬が最も多く12人で、皮膚が壊死したり肝機能に障害が生じたりするなどの症状が出た。軽い症状も含めると副作用の報告は大衆薬すべてで計1220人。そのうち15人では、死亡には至らなかったものの重症化して後遺症があった。

厚労省安全対策課によると、大衆薬でも入院治療が必要なほどの副作用があれば、公的な救済制度を利用できる場合がある。問合せは医薬品医療機器総合機構相の談話窓口、フリーダイヤル(0120)149931。(共同通信社8月30日)

= お断り =

今回会員名簿の再点検を行ったところ登録漏れでFAXニュースの届いていない会員がおられました。その方々へは今号より送信させて頂きます。不手際をお許し下さい。なおFAX番号の変更などありましたら事務局へのご連絡を宜しくお願い申し上げます。

KYOWA KIRIN

アレルギー性疾患治療薬

アロック錠^{2.5}

ALLELOCK Tablets オロパタジン塩酸塩錠

●「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等は製品添付文書をご参照ください。

製造販売元
協和発酵キリン株式会社
東京都千代田区大手町一丁目6番1号 〒100-8185
www.kksmile.com

[資料請求先]
協和発酵キリン株式会社
2008年5月作成
©登録商標